

令和7年度 MDASHプログラム 自己点検・評価

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	
学内からの視点	評価結果	
プログラムの履修・修得状況	B	本プログラムを構成する5科目の延べ履修人数総計は、2023年度531人、2024年度493人、2025年度734と約1.5倍の増加を示した。本プログラム5科目修了者については昨年度の1名に加え3名が修了に至った。
学修成果	A	「授業評価アンケート」より本プログラムを構成する5科目について、学生自身の学修成果を問う質問の結果では10点満点中8.03 (SD=1.42 N=348) のスコアであり、70.1%の履修学生が平均より上位に分布した。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	「授業評価アンケート」より学生の理解度を問う内容の質問の結果では、本プログラム構成5科目の理解度平均は5点満点中4.11 (SD=0.8 N=348) で、回答学生中、平均以上の理解度を示した人数割合は85.1%であった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	2025年度「授業評価アンケート」の授業時間内での自主的なコミットメントの項目についてあげると4.16 (SD=0.76 N=348) の平均値であり、主体的な学びが求められる科目は他の学生への奨めに値すると捉えることができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	本プログラムの意義について、オリエンテーションを通じた周知を継続的に実施して、全学的な履修率向上を推進する。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	本プログラムは2023年度からの開講となり、2024年度で1名、2025年度には3名の修了者を輩出した。これら修了生は2～3年であり、進路状況や企業等の評価を得るまでに至っていない。今後は修了者の進路選択動向や進路実績についての情報を蓄積してプログラムの有効性に関する検証材料としたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	—	本プログラムは2023年度からの開講となり、現時点で修了者の卒業生を輩出していないが、2024年度より地元の情報産業団体に大学として加盟するとともに、2025年度より当該団体参加の企業も含めた科目の開講を契機に、産業界からのニーズを汲み取る機会を設定する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	構成科目である1年次配当の「Society5.0と情報」科目では、グループによるプレゼンテーションを評価の必須内容としている。2025年度もグループで検討した報告を課題とすることで、現在から将来で関わる必要が数理・データサイエンス・AIについて自身に引き付けて理解することに努めた。今後もこの方法は継続していく。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	A	授業評価アンケートの教え方に関する質問の平均値は、構成5科目で4.26 (SD=0.8 N=348) の平均値であった。高校の課程で情報教科が必修化として定着し、自身の端末を持参する学生が増加することを見据えた教育体制についても継続的に検討していく。本年度よりシラバスの記載項目に「ICTとAIの活用」欄を設け、大学全体でのAI活用方針のもと授業内での利用方法について明記することとした。

評価判定のグレード：A=優れている B=標準的である C=改善の必要がある —=評価対象外